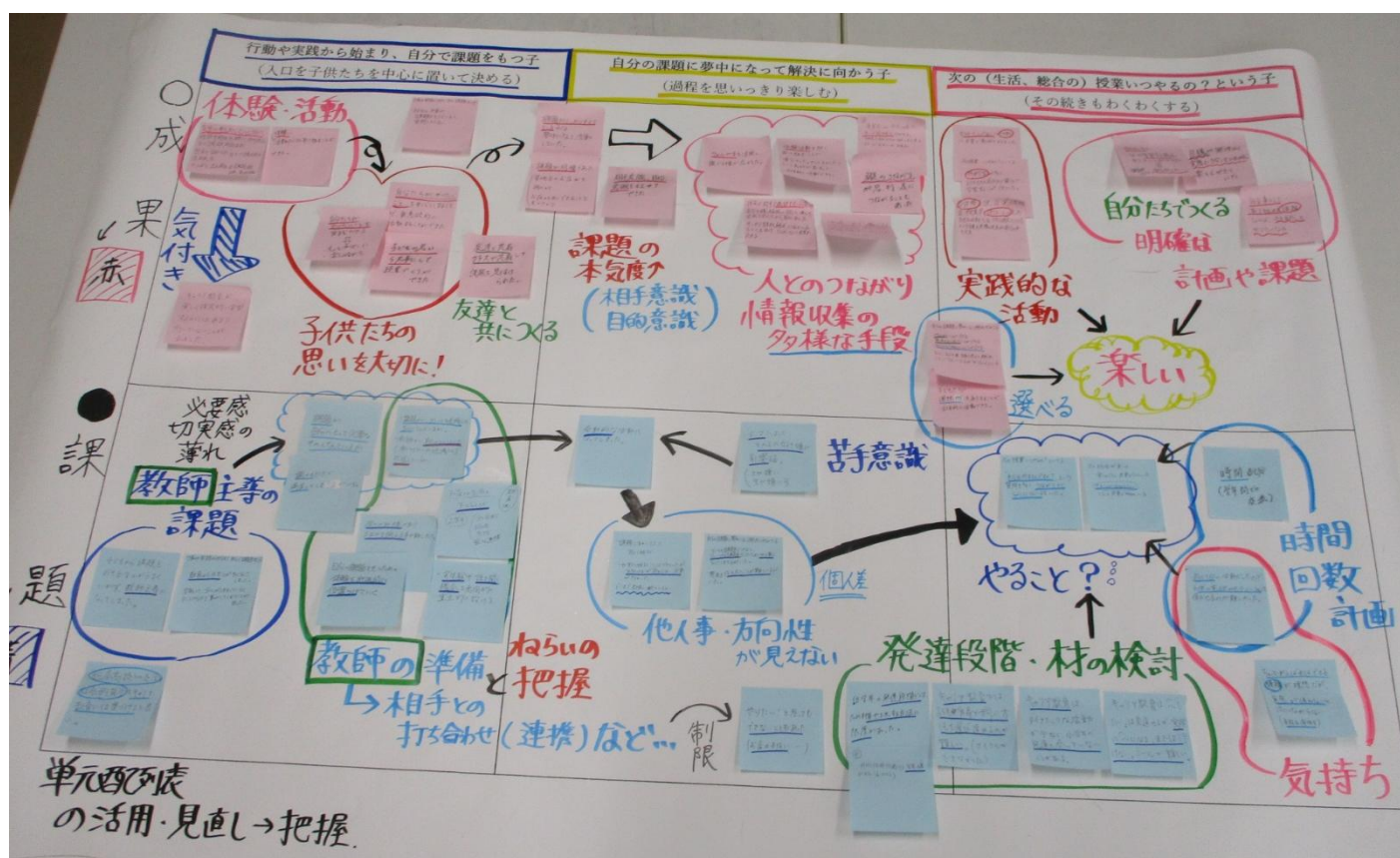


2 令和7年度の取り組み



(1) 研究内容

① 研究テーマとテーマ設定の理由

「確かな学力を育てる～本気の課題に向き合い、未来を『そうぞう』する～」とは

子供たちが学びの主体者として、「～したい!」「～してみたい!」という思いから本気の課題を設定し、探究していくことこそが主題である「確かな学力」の結節点になる。変化の激しい時代において、目睫にある問題に目を向けて課題をもつ力を付けるためには生活科や総合的な学習の時間の力は必要不可欠である。研究3年目ということで、1年目に作成した単元配列表と全体計画、2年目に行った単元を構想し作成した年間指導計画を活用し、さらにブラッシュアップしながら研究を進めてきた。昨年度末に本年度に向けた振り返りを模造紙で可視化したところ、上記にもあるように「教師主導の課題設定となっている」「他人事・方向性が見えない」「地域との連携の難しさ」等が課題として浮き彫りになってきた。このことから、本校では、育成を目指す資質・能力として、「学んだ知識や技能や体験から見つけた課題に向き合い、創造力や想像力を発揮して解決しようとする児童の育成」を据えた。まずは、教師主導の課題設定ではなく、体験活動の中で見つけたことや疑問に思ったこと等から本気で向かえる課題を設定し、主体的に解決できるよう次は何をするのか見通しをもって進めていけるよう年度当初に年間指導計画をベースに単元づくりを行った。さらにそこで得たものが今後の生活に生きて働くものとなるよう、教師がどのような手立てを講じていけばよいのか明らかにしていく。